第三者検証審査

理想科学では、環境報告書の信頼性及び客観性を高めるために、報告内容について第三者からご意見を頂き、反映するように努めてきました。本年度は、従来以上に報告内容の信頼性・客観性を高めるため、テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社による第三者検証審査を受けました

TÜV

「理想科学工業 環境経営報告書 2006」第三者審査報告書

理想科学工業 株式会社
代表取締役社長　羽山　明　殿

2006年07月20日

テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社
代表取締役社長　ラルフ　ヴィルテ

1. 審査の範囲及び目的、対象

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が　作成した「理想科学工業 環境経営報告書 2006」に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。
審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

2. 審査の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで審査を実施致しました。

(1) 環境マネジメントの概要 ： 組織の状況、運用の概況及び収集されるデータ項目を把握し、検討致しました。
(2) データの収集・集計および報告の過程 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報・データの収集過程・集計方法を検討致しました。
(3) データの正確性 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検討致しました。
(4) 記載情報の正確性、重要な情報の網羅性 ：作成責任者への質問、現場視察による状況把握、内部資料および外部資料との比較検討を実施し、報告書に記載されている記述情報について、正確性及び重要な情報が網羅されているかについて、確認致しました。

当審査機関の報告書審査プロセスは、当社 ISO14001 の現地監査、組織の報告書ドラフトの文書審査、組織の現地での報告書審査、是正処置要求項目の是正が実施された組織の報告書最終稿の確認、により構成されます。審査のプロセス及び、審査の過程に於ける是正処置要求と組織の対応の概要及び結果報告の詳細は、当審査機関のホームページ（ TÜV dot COM ）に公開されています。（ http://www.tuv.com/id=1104000467&lang=en　右下のバーコードから掲載先のアドレスが読み取れます。）
以上の手続きの結果、当社は結論を表明するための合理的な基礎を得たと判断しています。
なお、審査基準として、環境省環境報告書ガイドライン、GRIサステナビリティリポーティングガイドライン、環境省環境報告書作成基準、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

＊報告書現地審査訪問拠点　：　理想科学工業㈱ 本社、つくば事業所、霞ヶ浦事業所
＊＊ ISO14001 現地監査訪問拠点　：　理想科学工業㈱ つくば事業所、宇部事業所

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されたことを確認した結果、当審査機関は、「理想科学工業 環境経営報告書 2006」が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、重要な情報が網羅されており、正確に算出・記述されていると結論致します。

※上記のバーコードからテュフ・ラインランド・ジャパン株式会社のホームページ上に公開された報告書審査プロセスの詳細が掲載されたページのアドレスが読み取れます。

審査では、データの集計範囲や数値の算出まで検証していただき、記載の不備・不足及びデータの算出ミスまでもご指摘を受け、その審査結果を反映して本報告書を制作しています。

今後も、報告内容の正確さ、分かりやすさを追求するとともに、さまざまなステークホルダーに対して、より充実した情報を提供するよう努めていきます。

TÜV

4. 意見

【 総評および環境関連 】

テュフラインランドジャパンは、昨年・１昨年の理想科学工業殿報告書にて、第３者意見書を述べてまいりましたが、今回“環境経営報告書2006”に於いて、はじめて第3者審査を実施致しました。 第3者による審査を、審査報告書作成のプロセスに導入されたことを高く評価させて頂きます。

検証中にデータの正確性について、いくつかの修正が必要である事がわかりました。発見された部分の修正は実施され、環境経営報告書に反映されましたが、引き続き、データ集計の正確性向上が実現するしくみの改善について努力頂きたいと思います。

環境マネジメントの記載部分に於いて、単年度の目標及びその実績は記載されているものの、中長期的に理想科学工業殿として、目指すべき到達点が見えにくくなっています。
中期経営計画 『RISO VISION 07』基本方針に沿った全社環境目的をしっかりと提示し、それに対する現状の評価及び、どのようにその目的を達成するかについての具体的施策について説明をされる事が望まれます。
また、製品について、製品特性の中で目指す環境関連の目的提示（例えば、電力使用量・リサイクル容易性等）も、重要でしょう。
更に、これらの目的を設定するに至った組織の持つ著しい環境側面がどのようなものであるかについて、適切に説明が行われる事により、読者に印刷機の使用時・廃棄時の環境負荷低減 及び部品・製品の配送時の環境負荷低減を含めた組織の環境取り組みが、より理解されやすくなると思われます。

当報告書審査を通じて、理想科学工業殿の情報開示に対する真摯な姿勢と積極性を強く感じる事が出来ました。
今後、地域社会を含む、ステークホルダーとの対話や要望への対応など、双方向のコミュニケーションについて、“信頼を寄せられる”為の活動は何が該当しているか検討し実施されている結果について記載をされること、また、社会との関わりの部分や、組織の社会的責任部分の情報充実を期待致します。

【 環境会計 】

本文中で掲げられている集計範囲において、信憑性の高い資料に基づき、一定の合理的な方法により環境会計情報が算定されています。これらの情報には、各種利害関係者の判断を誤らせることを意図した情報、理解可能性 - 明瞭性を損なう情報を含んでいないことを確認しました。開示されている環境会計情報の全体で環境保全に関する取り組みのコストとそれらに伴う効果の実態を的確に反映し、期間比較にも配慮された情報であると判断しました。
次年度以降は、集計範囲を拡大して環境会計情報が量的に充実されることを期待致します。

以 上